

概 況

〔野菜〕

令和7年の取扱数量は、1,246,347 t で前年比4.5%減であった。取扱数量の多い品目（年間取扱数量50,000 t 以上の品目）では、キャベツ、はくさい、だいこん、たまねぎ、にんじん、レタス、きゅうり、トマト、が前年に比べ減少した。

平均価格は310円で、前年比2.9%高となった。

〔果実〕

令和7年の取扱数量は、336,305 t で前年比2.2%減であった。取扱数量の多い品目（年間取扱数量5,000 t 以上の品目）では、早生みかん、極早生みかん、とちあいか、刀根、豊水、が前年に比べ増加し、普通みかん、すいか、ふじ、バナナ、シャインマスカット、こだますいか、幸水、不知火、が前年に比べ減少した。

平均価格は599円で、前年比2.1%高となった。

（「野菜・果実順位別取扱高」参照）

月 別 市 況

1月

〔野菜〕

気温は北日本でかなり高く、東日本で高かった。降水量は西日本日本海側でかなり少なく、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美で少なかった。降雪量は北・東日本日本海側で少なかった。日照時間は、全国的に多く、北・東・西日本日本海側と東・西日本太平洋側でかなり多かった。北日本太平洋側と沖縄・奄美で多かった。

取扱数量は95,858 t で前年比10.6%減。平均価格は前年を大きく上回り357円で前年比42.8%高。

主な品目では、だいこんは千葉産及び神奈川産中心の入荷。千葉産及び低温と干ばつの影響を受け生育に遅延が見られた。神奈川産は前進傾向であった

が、千葉産同様に天候の影響を受け平年並みとなった。総入荷量は前年比2.5%減。平均価格前年を大きく上回り55円高い131円。にんじんは千葉産中心の入荷。8月からの高温の影響により生育に遅延が見られ、12月からの低温と干ばつにより肥大に遅延が見られた。総入荷量は前年比11.3%減。平均価格は前年を6割以上上回り75円高い193円。キャベツは愛知産中心に千葉産の入荷。愛知産は8月からの高温と天候不順、12月の低温と干ばつにより生育に遅延が見られた。千葉産も天候不順と低温、干ばつの影響を受け小玉傾向となった。総入荷量は前年比23.9%減。平均価格は前年の2倍を超える159円高い235円。レタスは静岡産中心に長崎産及び香川産の入荷。静岡産は定植時の高温と天候不順、12月の低温と干ばつにより小玉傾向となつて。長崎産、香川産ともに12月の低温、干ばつで生育に遅延が見られ、小玉傾向となつた。総入荷量は前年比15.4%減。平均価格は前年より5割以上高く116円高い332円。はくさいは茨城産中心の入荷。作付面積は前年並み、生育は順調であったが、少雨の影響を受けてやや小玉傾向となつた。価格は他の葉物野菜の出荷減少により引合いが強くなり高くなった。総入荷量は前年比4.1%減。平均価格は前年より83円高い139円。ほうれんそうは群馬産及び茨城産中心に関東産の入荷。低温の影響を受け生育に遅延が見られた。総入荷量は前年比5.9%減。平均価格は前年より198円高い663円。ばれいしょ類は北海道産中心に長崎産の入荷。北海道産は貯蔵品からの入荷。長崎産は定植時期の高温と干ばつの影響により小玉傾向となつた。総入荷量は前年比14.5%減。平均価格は入荷量の減少から前年を上回り99円高い231円。

〔果実〕

みかん類、かんきつ類、りんご類、いちご類中心の入荷で、取扱数量は26,929 t、前年比7.6%減。平均価格は719円で前年比34.2%高。

主な品目では、みかん類は愛媛産や長崎産の入荷が大きく減少し、主な産地は静岡産へとシフトした。夏場の高温、干ばつの影響から不作傾向となり、前年比で総入荷量は15.2%減。平均価格は前年比147円高。かんきつ類は愛媛産を中心にいよかん、ポンカン等が入荷しており、特に中晩かん類では前年の小玉傾向から一転して大玉傾向となったものの前年夏場の高温等の影響により不作となり、総入荷量は前年比12.7%減。平均価格は前年比91円高。りんご類は青森産ふじの貯蔵品を中心に入荷し、総入荷量は、前年同様夏から秋にかけての高温障害による品質低下等の影響を受けて不作となったことから、貯蔵量が少なく前年比4.3%減。平均価格は前年比69円高。いちご類は栃木産、茨城産を中心に入荷し、総入荷量は前年比10.2%減。平均価格は前年比298円高。

2月

[野菜]

気温は北日本では高く、西日本と沖縄・奄美ではかなり低かった。降水量は北・東日本日本海側で多かった。東日本太平洋側でかなり少なく、西日本と沖縄・奄美で少なかった。降雪量は東日本日本海側でかなり多く、西日本日本海側では多かった。東日本太平洋側で少なかった。日照時間は東日本太平洋側でかなり多く、北・西日本太平洋側では多かった。東日本日本海側、沖縄・奄美では少なかった。

取扱数量は91,293 t で前年比15.1%減。平均価格は341円で前年比28.7%高。

主な品目では、だいこんは神奈川産及び千葉産中心の入荷。神奈川産は低温と干ばつの影響はあったものの生育は順調。千葉産は12月からの低温と干ばつの影響により生育に遅延が見られた。総入荷量は前年並み。平均価格は前年より32円高い123円。にんじんは千葉産中心の入荷。播種時期の高温と天候不順により生育が遅延し、12月からの低温と干ばつ

により肥大が良くなかった。総入荷量は前年比17.1%減。平均価格は前年より80円高い216円。レタスは静岡産中心に茨城産の入荷。静岡産は定植時の高温と天候不順により生育に遅延が生じ、回復はしているものの小玉傾向となった。茨城産はおおむね順調に推移したが、気温の低下により育成が停滞した。総入荷量は前年比21.2%減。平均価格は前年を大きく上回り93円高い269円。はくさいは茨城産中心の入荷。生育は順調であるが、12月からの低温と干ばつの影響により小玉傾向となった。出荷が前進傾向であったため、切り上り見込みが早まり、入荷量は減少傾向となった。総入荷量は前年比19.8%減。平均価格は前年を大幅に上回り109円高い176円。ほうれんそうは茨城産及び群馬産中心の入荷。茨城産は低温と干ばつの影響により生育が遅延した。群馬産も低温と干ばつの影響により露地物中止に生育不良があった。総入荷量は前年比16.0%減。平均価格は前年より136円高い563円。きゅうりは宮崎産中心に千葉産及び群馬産の入荷。宮崎産は8月からの高温、10月、11月の天候不順、12月の低温等により、一部に生育不良や病害虫の発生が見られたがおおむね生育は順調であった。千葉産及び群馬産も生育は順調であったが、一部に病害や低温の影響が見られた。総入荷量は前年比5.5%減。平均価格は前年より17円安い480円。ばれいしょ類は北海道産中心に鹿児島産の入荷。北海道産の収穫は終了し貯蔵品からの入荷。残量減少により昨年を下回る入荷量となった。鹿児島産は高温と11月の降雨、12月の低温と干ばつにより生育が遅延し、作柄が良くなり小玉傾向であった。総入荷量は前年を大幅に下回り前年比21.9%減。平均価格は前年を上回り85円高い223円。たまねぎは北海道産中心に静岡産の入荷。北海道産の収穫は終了した。夏場の干ばつの影響で小玉傾向となった。静岡産は播種時期からの天候不良により生育不良が見られた。総入荷量は前年比5.5%減。平均価格は高めに推移した前年より19円安い167円。

[果実]

かんきつ類・みかん類・いちご類・りんご類中心の入荷で取扱数量は24,900 t、前年比16.2%減。平均価格は732円で前年比20.8%高。

主な品目では、かんきつ類は愛媛産を中心に不知火、いよかん、ポンカン等が入荷し、総入荷量は前月同様に夏場の高温、干ばつの影響を受けたことで不作傾向であったため、前年比20.5%減。平均価格は前年比80円高。みかん類は前月に引き続き静岡産中心の入荷となり、夏場の高温の影響で不作傾向となっており、総入荷量は前年比19.4%減。平均価格は前年比138円高。いちご類は栃木産を中心に各地から順調に入荷し、前年比で総入荷量は1.8%増、平均価格は前年比54円高。りんご類は引き続き貯蔵品の青森産ふじ中心の入荷で総入荷量は前年比17.0%減。平均価格は前年比76円高。

3月

[野菜]

気温は全国的の変動が大きく、北・東・西日本で高かった。降水量は西日本日本海側が多かった。降雪量は東・西日本太平洋側が多かった。西日本日本海側ではかなり少なく、北・東日本日本海側で少なかった。日照時間は東・西日本太平洋側と西日本日本海側で少なかった。

取扱数量は101,446 tで前年比3.2%減。平均価格は338円で前年比10.5%高。

主な品目では、だいこんは千葉産及び神奈川産中心の入荷。千葉産は播種時期の干ばつの影響により一部に生育遅延が見られたが、全体として生育は順調であった。神奈川産は12月からの低温、干ばつの影響で生育に遅延が見られたが、小ぶりであるが生育は回復している。総入荷量は前年比1.8%減。平均価格は前年より34円高い139円。にんじんは徳島産を中心に千葉産の入荷。徳島産は低温の影響によ

り生育が遅延していたが、気温の上昇とともに回復している。千葉産は12月からの低温と少雨より肥大に影響があり、全体の出荷数量が平年を下回っている。総入荷量は前年比7.8%減。平均価格は前年より84円高い285円。キャベツは愛知産中心に千葉産及び神奈川産の入荷。愛知産は2月の低温と干ばつの影響により生育に遅延が生じており小玉傾向となった。神奈川産は12月からの低温、干ばつの影響により生じていた生育遅延は小玉ながらも回復傾向となった。千葉産も天候の影響を受け生育の遅延が見られたが、1月の降雨により小玉は解消傾向。総入荷量は前年比3.6%減。平均価格は前年より60円高い172円。レタスは茨城産中心に入荷。茨城産は12月から2月の少雨の影響により小玉傾向であったが、生育は回復し順調。総入荷量は前年比8.3%増。平均価格は高めに推移した前年を下回り14円安い207円。はくさいは茨城産中心の入荷。12月から2月の低温と少雨の影響により小玉傾向であったが生育は順調であった。引合いが強いことから収穫が前進し、残量が少なく切り上りが早い。総入荷量は前年比14.9%減。平均価格は前年より37円高い178円。ほうれんそうは茨城産及び群馬産を中心に関東産の入荷。茨城産の生育は概ね順調であった。群馬産は露地物で干ばつの影響を受け生育不良であったが全体的には順調。総入荷量は前年を上回り24.2%増。平均価格は前年より80円安い462円。ばれいしょ類は北海道産を中心に鹿児島産の入荷。北海道産は収穫が終了し貯蔵品からの入荷。鹿児島産は秋季の長雨、1月から2月の低温と干ばつによる生育不良で小玉傾向であった。残量が少なく発芽が懸念される。総入荷量は前年を大幅に下回り23.3%減。平均価格は前年より85円高い237円。

[果実]

かんきつ類・いちご類・りんご類中心の入荷で、取扱数量は22,819 t、前年比8.2%減。平均価格は713円で前年比10.1%高。

主な品目では、かんきつ類は愛媛産、熊本産、和歌山産を中心に不知火、清見、あまなつかん等が入荷し、前年夏の暑さに加え、2月上旬の寒波の影響もあり国内主要産地は軒並み前年よりも減少し、総入荷量は前年比21.0%減。平均価格は前年比61円高。いちご類は栃木産、福岡産を中心に前月に引き続き順調に入荷したため、総入荷量は生育遅延のあった前年比24.6%増。平均価格は前年比173円安。りんご類は前月同様青森産ふじの貯蔵品を中心に入荷し、総入荷量は前年比4.3%減。平均価格は前年比19円高。

4月

[野菜]

気温は北・東・西日本で高く、沖縄・奄美で低かった。降水量は北日本でかなり多かった。西日本でかなり少なく、東日本日本海側で少なかった。日照時間は西日本、沖縄・奄美で多かった。北日本ではかなり少なく、東日本日本海側で少なかった。

取扱数量は106,447 t で前年比3.5%減。平均価格は307円で前年比4.4%安。

主な品目では、だいこんは千葉産中心の入荷。乾燥が続いた影響で生育にばらつきが見られたが、3月の降雨により生育は順調となった。総入荷量は前年比1.3%増。平均価格は前年より17円安い116円。にんじんは徳島産中心の入荷。低温と干ばつで遅れていた生育は3月の気温上昇により回復し、Mサイズ中心となったが生育は順調であった。総入荷量は前年比3.0%増。平均価格は前年より12円高い285円。キャベツは神奈川産を中心に愛知産及び千葉産の入荷。神奈川産は干ばつで生育に影響があったものの3月の天候回復に伴い生育は順調となった。愛知産は12月からの少雨の影響で小玉傾向であったが、3月の天候に恵まれ生育は順調であった。千葉産は天候不順の影響により、生育は遅延気味となった。総入荷量は前年比0.8%増。平均価格は前年より30

円安い117円。レタスは茨城産中心の入荷。低温と乾燥による生育の停滞から回復し、生育はおおむね順調となった。総入荷量は前年比6.3%増。平均価格は前年より64円安い156円。きゅうりは群馬産及び埼玉産中心に宮崎産の入荷。群馬産及び埼玉産の生育はおおむね順調。宮崎産は3月の天候不良の影響により生育不良が見られる。総入荷量は前年比3.0%減。平均価格は高値で推移した前年より71円安い313円。トマトは熊本産及び栃木産中心の入荷。熊本産は天候不順の影響により初期生育不良が見られたがその後の天候に恵まれ回復した。栃木産の肥大不足や病害虫が散見されるが、生育はおおむね順調であった。総入荷量は前年比3.5%減。平均価格は前年より34円安い399円。ばれいしょ類は鹿児島産中心に北海道産の入荷。鹿児島産は冬季の低温の影響により小玉傾向となった。北海道産は貯蔵品からの入荷。残量は少なく発芽が懸念される。総入荷量は前年を下回り29.2%減。平均価格は前年を上回り141円高い320円。たまねぎは北海道産を中心に佐賀産の入荷。北海道産は貯蔵品から入荷しているが作柄が悪く残量が少ない。佐賀産は夏場の高温の影響により初期生育不良で冬季の低温と干ばつにより生育が遅延したことにより小玉傾向となった。総入荷量は前年比11.4%減。平均価格は前年より20円高い162円。

[果実]

かんきつ類・いちご類・りんご類・すいか類中心の入荷で、取扱数量は19,287 t で前年比11.3%減。平均価格は663円で前年比5.6%高。

主な品目では、かんきつ類は主要品目であるあまなつかん、不知火、河内晩柑の入荷量が不作により軒並み前年よりも減少し、総入荷量は前年比16.3%減。平均価格は前年比28円高。いちご類は栃木産を中心に入荷し、前年同月は気温上昇に伴いそれまでの低温による生育遅延が解消されて入荷量が増加していたため、総入荷量は前年比8.0%減。平均価格

は前年比64円高。りんご類は青森産貯蔵品を中心に入荷し、総入荷量は前年比2.6%増。平均価格は品薄高傾向のあった前年比4円安。すいか類は熊本産を中心に入荷し、2～3月の天候不順の影響により生育遅延が生じたこともあり、総入荷量は前年比23.8%減。平均価格は前年比54円高。

5月

[野菜]

気温は北日本で高かった。降水量は東日本太平洋側でかなり多く、西日本と沖縄・奄美で多かった。日照時間は東日本太平洋側でかなり少なく、西日本太平洋側で少なかった。

取扱数量は113,311 t で前年比1.6%増。平均価格は276円で前年比11.5%安。

主な品目では、だいこんは千葉産中心の入荷。冬季の少雨の影響により播種や生育の遅延も見られたが、その後の気温の上昇と降雨により回復し、やや前進傾向となった。総入荷量は前年比2.0%減。平均価格は前年より31円安い104円。にんじんは徳島産中心に千葉産の入荷。徳島産は播種時期の天候不順と冬季の低温と少雨の影響により生育の遅延が見られ細物傾向であったが、3月以降の気温の上昇と降雨により回復した。千葉産は冬場の少雨の影響により一部生育不良が見られたが、生育はおおむね順調であった。総入荷量は前年並。平均価格は前年より40円安い179円。キャベツは千葉産を中心に神奈川県産及び愛知産の入荷。千葉産は冬季の少雨の影響により生育の遅延が見られ小玉傾向であったが、天候の回復により生育はおおむね順調となった。神奈川県産は干ばつの影響により生育にばらつきが見られたが3月以降の気温の上昇と降雨により回復した。愛知産は千葉産同様に冬季の天候の影響を受けたが、回復し順調となった。総入荷量は前年比6.4%増。平均価格は高値で推移した前年を下回り91円安い79円。レタスは群馬産を中心に長野産及び茨城産の入

荷。群馬産は降雪と低温の影響に生育初期の不良が見られたが、気温の上昇と降雨により生育は順調となった。長野産は高温と干ばつの影響により生育にばらつきが見られ、一部に病害が散見された。茨城産は3月以降の天候に恵まれ、おおむね順調であった。総入荷量は前年比0.9%減。平均価格は前年より40円安い102円。きゅうりは埼玉産及び群馬産中心に宮崎産の入荷。埼玉産は低温の影響により一部に生育と遅れと病虫害の発生が見られた。群馬産の生育はおおむね順調であるが、病虫害の発生が見られた。入荷量は少なかった前年を下回った。総入荷量は前年比7.7%減。平均価格は前年より29円安い278円。なすは高知産中心の入荷。高知産は樹勢の低下が見られ、病虫害が散見された。総入荷量は前年比3.4%増。平均価格は前年より73円安い359円。トマトは熊本産及び栃木産中心に愛知産の入荷。熊本産は日照不足の影響により小玉傾向であったが、天候の回復により生育は順調となった。栃木産及び愛知産の生育はおおむね順調であるが病虫害の発生が散見された。総入荷量は前年比9.0%増。平均価格は前年より34円安い354円。ばれいしょ類は長崎産及び鹿児島産を中心に入荷。長崎産は冬季の低温と干ばつ等により生育遅延が見られたが、その後の気温の上昇と降雨により回復傾向となった。鹿児島産も冬季の低温と干ばつの影響を受けたが、生育は順調だった。総入荷量は少なかった昨年を上回り前年比12.9%増。平均価格は前年より12円高い248円。たまねぎは佐賀産中心に北海道産及び兵庫産の入荷。佐賀産は冬季の低温と干ばつの影響により生育遅延が生じていたが気温の上昇と降雨により回復傾向となった。北海道産は貯蔵品から入荷。作柄不良で残量が少ない。兵庫産の生育はおおむね順調であった。総入荷量は少なかった昨年を下回り前年比16.0%減。平均価格は前年より36円高い159円。

[果実]

すいか類・りんご類・かんきつ類・メロン類・いちご類中心の入荷で、取扱数量は18,915 t、前年比6.6%減。平均価格は619円で前年比4.1%高。

主な品目では、すいか類は大玉が熊本産を中心に入荷し、入荷量は前年比2.8%減、こだまが茨城産を中心に入荷し、入荷量は前年比4.7%減。すいか類全体の総入荷量は前年比3.2%減。平均価格は前年比18円安。りんご類は青森産貯蔵品を中心に、総入荷量は前年比2.0%増。平均価格は前年比14円安。かんきつ類は熊本産やアメリカ産を中心に入荷し、あまなつかんや不知火等の国産品は、不作による減少傾向であり、前年が不作だった輸入品のネーブル等の入荷は増加したものの、総入荷量では前年比28.6%減。平均価格は前年比41円高。メロン類は茨城産、熊本産を中心に入荷し、総入荷量は、天候不順による小玉傾向や燃油費高騰の影響による厳寒期の作付け減少もあった前年比7.9%増。平均価格は前年比18円安。

6月

[野菜]

気温は北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美で高かった。降水量は沖縄・奄美でかなり少なく、北・西日本太平洋側で少なかった。日照時間は北・東・西日本太平洋側、沖縄・奄美でかなり多く、北・東・西日本日本海側では多かった。

取扱数量は105,921 tで前年比1.3%減。平均価格は290円で前年比2.8%高。

主な品目では、だいこんは青森産中心に千葉産及び北海道産の入荷。青森産は低温と干ばつの影響により生育が遅延し、病虫害も散見された。千葉産は終盤であるが残量があり順調。北海道産は低温の影響により生育が遅延が見られた。総入荷量は前年比11.5%減。平均価格は前年より21円高い113円。にんじんは千葉産中心の入荷。冬季の低温と少雨の影響により生育が遅延が散見されたが、おおむね順調

であった。総入荷量は前年比7.6%減。平均価格は前年より42円安い184円。キャベツは千葉産を中心に茨城産及び群馬産の入荷。千葉産は冬季の低温の影響により播種が遅れ、生育が遅延傾向にあったが、その後天候に恵まれ生育は順調となった。茨城産と群馬産は生育に若干の遅延が生じていたものの回復し順調であった。総入荷量は前年比4.8%減。平均価格は前年より12円安い72円。レタスは長野産中心に群馬産及び茨城産の入荷。長野産と群馬産は低温や干ばつの影響があったが、回復し順調となった。総入荷量は前年を上回り前年比6.3%増。平均価格は前年より7円高い107円。きゅうりは埼玉産及び群馬産中心に福島産の入荷。埼玉産は病虫害が見られたが、遅延気味の生育は回復傾向となった。群馬産は月中旬以降の天候不順により数量が落ちている。福島産は低温と日照不足により生育は停滞しており、一部に虫害が散見される。総入荷量は前年比3.2%減。平均価格は前年より100円高い326円。トマトは熊本産及び栃木産中心に愛知産の入荷。熊本産は気温の低下の影響があるものの生育はおおむね順調であった。栃木産も生育はおおむね順調であった。愛知産は病虫害が散見されるものの生育はおおむね順調であった。総入荷量は前年比6.5%減。平均価格は前年より8円高い343円。ばれいしょ類は長崎産中心に静岡産の入荷。長崎産は早播きが低温、干ばつにより生育が遅延が見られたがおおむね順調であった。静岡産は低温や干ばつの影響を受け、やや小ぶりであるが生育は順調となった。総入荷量は前年を大幅に上回り前年比34.4%増。平均価格は高騰していた前年より147円安い165円。たまねぎは佐賀産を中心に兵庫産の入荷。佐賀産は冬季の低温と干ばつの影響により生育が遅れが出ており、小玉傾向となっている。兵庫産の生育はおおむね順調で大玉傾向かつ品質も良好であった。総入荷量は前年比9.6%増。平均価格は前年より21円安い141円。

[果実]

すいか類・メロン類・りんご類・もも類中心の入荷で、取扱数量は21,031 t、前年比7.0%減。平均価格は575円で前年比3.6%高。

主な品目では、すいか類は主な産地が熊本産から千葉産へと移行し、総入荷量は前年比2.8%減。平均価格は前年比5円高。メロン類は茨城産を中心に貴味、クインシー、アンデス等が入荷し、総入荷量は主要品種が軒並み減少したため前年比10.5%減。平均価格は前年比46円高。りんご類は青森産を中心に入荷し、総入荷量はニュージーランドからの輸入品が増加した結果、前年比3.4%増。平均価格は前年比6円安。もも類は山梨産を中心に入荷し、前年より数日ほど生育遅延が生じており、総入荷量は前年比32.1%減。平均価格は前年比124円高。

7月

[野菜]

気温は北・東・西日本でかなり高く、1898年以降で7月の平均気温としては最も高かった。沖縄・奄美では低かった。降水量は沖縄・奄美でかなり多かった。北日本、東・西日本日本海側でかなり少なく、東・西日本太平洋側で少なかった。日照時間は北・東・西日本でかなり多く、沖縄・奄美では少なかった。

取扱数量は104,814 tで前年比1.0%減。平均価格は291円で前年比2.1%高。

主な品目では、だいこんは北海道産及び青森産を中心に入荷。北海道産は4月から5月の降雨により播種に遅れが見られ、その後の干ばつの影響を受け生育が停滞した。青森産も干ばつの影響を受け生育が停滞した。総入荷量は少なかった前年を更に下回り前年比15.8%減。平均価格は前年より24円高い113円。にんじんは青森産を中心に北海道産の入荷。青森産及び北海道産は3月、4月の低温による生育の遅延と干ばつの影響により肥大が進まず生育が停滞した。総入荷量は前年比15.1%減。平均価格は前

年より33円高い214円。キャベツは群馬産中心の入荷。適度な降雨に恵まれ生育は順調であった。総入荷量は前年比2.1%減。平均価格は前年より5円高い82円。レタスは長野産中心に群馬産の入荷。長野産は適度な降雨に恵まれ、生育はおおむね順調であった。低地では高温の影響による良品率の低下が見られた。群馬産の生育はおおむね順調であった。総入荷量は前年比3.7%増。平均価格は前年より6円安い108円。きゅうりは福島産中心に岩手産の入荷。福島産の5月の低温、日照不足による生育停滞と、6月の高温の影響で曲がり果が見られた。一部に虫害が散見された。岩手産は降雨の影響により定植に遅れが見られたが、回復し生育は順調。高温と少雨の影響による曲がり果の発生や虫害が見られた。総入荷量は前年比7.5%増。平均価格は前年より37円安い343円。トマトは北海道産を中心に青森産及び岩手産の入荷。北海道産の生育は順調であった。青森産の生育はおおむね順調であったが一部産地で病虫害が見られた。岩手産は高温の影響で生育の停滞が見られ、虫害が散見された。総入荷量は前年比8.0%減。平均価格は前年より48円高い410円。ばれいしょ類は茨城産、静岡産及び長崎産の入荷。茨城産の生育は順調であった。静岡産は小玉ではあるが生育は順調であった。長崎産は生育順調ながら遅延も生じたことで切り上りの時期が後倒しとなった。総入荷量は前年比8.3%増。平均価格は前年を大幅に下回り134円安い119円。

[果実]

すいか類・もも類・メロン類・りんご類・なし類中心の入荷で、取扱数量は29,391 t、前年比5.5%減。平均価格は603円で前年比6.4%高。

主な品目では、すいか類は山形産、新潟産、神奈川県産を中心に順調に入荷し、総入荷量は前年比2.8%増。平均価格は前年比45円高。もも類は山梨産、福島産を中心に白鳳やなつっこ等が入荷した。玉肥大期の高温、少雨の影響により小玉傾向となり、

とりわけ福島産あかつきは上記に加えて降雨による落果等も生じたことで半減し、総入荷量は、前年比25.6%減。平均価格は前年比133円高。メロン類は千葉産の貴味、山形産アンデス、静岡産アールスを中心に入荷し、総入荷量は前年比8.5%減。平均価格は前年比66円高。なし類は前年同様、佐賀産や福岡産を中心に入荷し、高温、干ばつによる小玉傾向もあり、総入荷量は前年比19.8%減。平均価格は前年比64円高。

8月

[野菜]

気温は北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美で高かった。降水量は東日本日本海側でかなり多く、北・西日本日本海側で多かった。沖縄・奄美でかなり少なく、東日本太平洋側で少なかった。日照時間は沖縄・奄美でかなり多く、東・西日本と北日本太平洋側では多かった。

取扱数量は100,527 t で前年比9.8%減。平均価格は314円で前年比1.3%高。

主な品目では、だいこんは北海道産中心に青森産の入荷。北海道産は干ばつの影響で生育に遅延が生じていたが、適度な降雨により回復し生育は順調となった。青森産の生育は順調であったが、高温の影響で一部に病虫害が見られる。総入荷量、平均価格は前年並。にんじんは北海道産中心の入荷。春の天候不良と高温、干ばつの影響を受けて生育が停滞し細物傾向となった。総入荷量は前年比16.1%減。平均価格は前年より42円高い161円。キャベツは群馬産中心の入荷。気温高と適度な降雨に恵まれ生育は順調で大玉傾向であった。総入荷量は前年比4.1%減。平均価格は前年より12円安い82円。きゅうりは福島産中心に岩手産など東北産の入荷。福島産は高温と干ばつの影響を受け、形状不良が見られ、病虫害も発生した。岩手産の生育は順調だが、高温の影響により形状不良が見られ、一部に病虫害が散見さ

れた。総入荷量は前年比9.1%減。平均価格は前年より16円安い385円。トマトは北海道産を中心に福島産及び群馬産の入荷。北海道産は高温、干ばつによる生育不良が見られた。福島産も高温、干ばつの影響を受け、小玉傾向が見られ一部で病虫害が散見された。群馬産は高温による落花や病虫害が散見された。総入荷量は前年比15.5%減。平均価格は前年より82円高い504円。ばれいしょ類は北海道産中心の入荷。干ばつの影響により若干小玉傾向となっている。総入荷量は少なかった前年を下回り11.4%減。平均価格は前年より47円安い193円。たまねぎは北海道産を中心に入荷。生育は順調であるが、干ばつの影響を受け小玉傾向。一部で虫害が見られた。総入荷量は前年比13.8%減。平均価格は17円安い125円。

[果実]

すいか類・なし類・もも類・ぶどう類中心の入荷で、取扱数量は28,450 t、前年比8.2%減。平均価格は661円で前年比3.1%高。

主な品目では、すいか類は山形産を中心に秋田産、長野産が入荷し、総入荷量は前年比5.1%減。平均価格は猛暑の影響で引き合いの強かった前年比33円安。日本なし類は千葉産、栃木産、茨城産幸水を中心に入荷し、総入荷量は高温、干ばつの影響による小玉傾向もあり、前年比16.8%減。平均価格は前年比53円高。もも類は福島産、山梨産を中心にあかつき、川中島白桃等が入荷し、玉肥大期の高温、干ばつの影響により小玉傾向となり、総入荷量は前年比10.0%減。平均価格は前年比99円高。ぶどう類は山梨産シャインマスカットや巨峰、山形産デラウェア等を中心に入荷した。高温の影響により生育遅延傾向がみられたシャインマスカットの入荷量は減少したものの、その他の品種は軒並み増加したため、総入荷量は前年比2.4%増。平均価格は前年比124円安。

9月

[野菜]

気温は全国的にかなり高かった。降水量は北日本、東日本日本海側で多かった。沖縄・奄美でかなり少なく、東日本太平洋側で少なかった。日照時間は北日本太平洋側、沖縄・奄美でかなり多く、北日本日本海側と東日本、西日本太平洋側で多かった。

取扱数量は105,463 t で前年比0.9%減。平均価格は321円で前年比0.6%安。

主な品目では、だいこんは北海道産及び青森産中心の入荷。北海道産は高温と干ばつによる生育不良、良品率の低下が見られたものの回復し、生育は順調である。青森産はおおむね生育は順調であるが、高温と干ばつによる生理障害が見られた。その後生育は回復し順調。総入荷量は前年比11.6%増。平均価格は前年より8円安い138円。にんじんは北海道産中心の入荷。高温と干ばつの影響により、細物傾向で一部に短根が見られた。生育はおおむね順調。総入荷量は前年比0.4%減。平均価格は前年より9円高い150円。キャベツは群馬産中心の入荷。生育は順調で大玉傾向であるものの、一部に虫害が見られた。総入荷量は前年比4.3%増。平均価格は前年より8円安い88円。レタスは長野産中心の入荷。高温と干ばつの影響から回復し生育は順調となった。一部に病害の発生が見られる。総入荷量は前年比1.8%増。平均価格は前年より58円安い161円。はくさいは長野産中心の入荷。高温と干ばつの影響により生育不良が見られ小玉傾向となり、病害の発生が散見された。総入荷量は前年比11.9%減。平均価格は前年より2円高い114円。きゅうりは福島産中心に群馬産及び岩手産の入荷。福島産は高温と干ばつの影響により生育不良により良品率の低下、一部に病虫害の発生が見られた。群馬産は高温と乾燥による生育不良が見られ、病虫害の発生も散見された。岩手産の生育はおおむね順調であったが、高温と乾燥による曲がり果や太果などの形状不良が見られ、

病害も散見された。総入荷量は前年比0.4%減。平均価格は前年より5円高い448円。トマトは千葉産、福島産及び北海道産の入荷。千葉産は高温での着果不良が見られるが、生育はおおむね順調であった。福島産は高温の影響により裂果など生理障害が見られ、病虫害も散見される。北海道産は高温の影響による着果不良、落花が多く、小玉傾向であった。総入荷量は前年比0.5%減。平均価格は前年より11円高い649円。たまねぎは北海道産中心の入荷。高温と干ばつの影響により小玉傾向となった。総入荷量は前年を大幅に下回り21.8%減。平均価格は前年より51円高い168円。

[果実]

なし類・ぶどう類・りんご類・みかん類・かき類中心の入荷で、取扱数量は27,795 t。前年比1.7%増。平均価格は641円で前年比0.4%高。

主な品目では、日本なし類は栃木産を中心に福島産、千葉産、茨城産が入荷した。豊水、あきづきを中心に、総入荷量は干ばつによる小玉傾向のあった前年比7.0%増。平均価格は前年比14円高。ぶどう類は山梨産、長野産のシャインマスカットを中心に入荷し、総入荷量は前年比2.6%減。平均価格は前年比52円安。りんご類は青森産つがるを中心に入荷し、前年同様夏場の高温、干ばつの影響による着色遅れや小玉傾向に加え、主産地である青森県では前年末から2月まで断続した記録的な降雪に伴う果樹への被害もあったことから、総入荷量は前年比16.6%減。平均価格は前年比60円高。

10月

[野菜]

気温は西日本、沖縄・奄美でかなり高く、東日本で高かった。降水量は東日本日本海側、沖縄・奄美でかなり多かった。日照時間は沖縄・奄美でかなり

多かった。東日本太平洋側でかなり少なく、北日本、東・西日本日本海側で少なかった。

取扱数量は111,755 t で前年比4.8%減。平均価格は290円で前年比4.3%安。

主な品目では、だいこんは青森産、北海道産及び千葉産の入荷。青森産は夏季の高温の影響により生育不良が見られたが回復傾向にある。一部に虫害が散見された。北海道産も高温と干ばつの影響が見られたが回復している。千葉産は播種時期の遅れや高温、乾燥による生育不良からは回復している。総入荷量は前年比1.4%減。平均価格は前年より13円安い107円。にんじんは北海道産中心の入荷。夏季の高温と干ばつの影響により生育の不良が見られたが、回復し生育はおおむね順調となった。切り上りがやや早い。総入荷量は前年比12.2%減。平均価格は前年より36円高い151円。キャベツは群馬産中心に岩手産、千葉産の入荷。群馬産は高温の影響で一部に病害が見られたが、生育は順調であった。岩手産は干ばつの影響により生育不良が見られたものの降雨もあり回復した。千葉産は高温と乾燥の影響で播種や定植が遅れ、生育が遅延した。総入荷量は前年比2.1%減。平均価格は39円安い89円。レタスは茨城産を中心に長野産、群馬産の入荷。茨城産は高温と乾燥の影響で定植が遅れ、生育に遅延が生じた。長野産は干ばつの影響により生育が遅延していたが回復し、おおむね順調となった。群馬産の生育は順調に推移した。総入荷量は前年比7.0%増。平均価格は前年より77円安い147円。はくさいは長野産を中心に入荷。高温と干ばつの影響で生育は遅延傾向となった。一部に病害も見られた。総入荷量は前年比4.5%増。平均価格は前年より21円安い84円。きゅうりは群馬産及び埼玉産中心の入荷。群馬産は夏季の高温の影響により生育不良により、良品率の低下が見られた。また、降雨の影響により病虫害も散見された。埼玉産も高温の影響により流れ果が多発するなど生育不良が見られ、病虫害も散見された。総入荷量前年比4.5%減。平均価格は前年より63円安

い456円。たまねぎは北海道産中心の入荷。高温と干ばつで小玉傾向。作付面積は前年並みで作柄についてはやや不作となった。総入荷量は前年比22.3%減。平均価格は前年より99円高い205円。

[果実]

みかん類・かき類・りんご類中心の入荷で、取扱数量は32,351 t。前年比4.1%増。平均価格は479円で前年比8.8%安。

主な品目では、みかん類は熊本産、長崎産、愛媛産を中心に極早生みかんが入荷した。やや大玉傾向となり、前年は生育期の高温、干ばつによる着色不良や小玉傾向もあったことから、総入荷量は前年比28.6%増。平均価格は前年比49円安。かき類は和歌山産、奈良産を中心に入荷し、総入荷量は高温障害やカメムシ被害のあった前年比14.2%増。平均価格は前年比38円安。りんご類は青森産早生ふじ、長野産シナノスイート等が入荷し、近年引き続き夏場の高温障害等の影響により小玉傾向となり総入荷量は前年比11.6%減。平均価格は前年比8円高。

11月

[野菜]

気温は沖縄・奄美で高かった。降水量は沖縄・奄美でかなり多く、北日本で多かった。東・日本太平洋側と西日本日本海側でかなり少なく、西日本太平洋側で少なかった。日照時間は東日本日本海側でかなり多く、北・西日本と東日本太平洋側で多かった。

取扱数量は99,036 t で前年比8.3%減。平均価格は306円で前年並み。

主な品目では、だいこんは千葉産中心に神奈川県産の入荷。千葉産は乾燥による生理障害が散見されたが、適度な降雨と晴天により生育はおおむね順調であった。神奈川県産は高温による発芽不良が見られたが、生育はおおむね順調であった。総入荷量は前年比6.0%増。平均価格は前年より22円安い95円。キ

ヤベツは千葉産を中心に愛知産及び茨城産の入荷。千葉産の生育は前進傾向で順調であった。愛知産と茨城産は夏季の高温の影響で生育は若干遅れていたが、その後に適度な降雨に恵まれて生育は順調となった。総入荷量は前年比7.1%増。平均価格は高騰した前年より115円安い92円。レタスは茨城産中心の入荷。高温と乾燥の影響で一部に生育の遅延が見られたが、その後に天候は回復し、生育はおおむね順調となった。総入荷量は前年比3.3%減。平均価格は前年より60円安い186円。はくさいは茨城産中心に長野産の入荷。茨城産の育成は順調で品質は良好であった。長野産は夏の高温のなど天候の影響により例年を下回り、まとまった入荷は11月で終了。総入荷量は前年比8.6%減。平均価格は前年より14円安い66円。きゅうりは宮崎産、埼玉産及び群馬産の入荷。宮崎産は天候に影響されて生育不良や虫害が散見されたが、生育はおおむね順調であった。埼玉産は高温と影響により生理障害や病虫害が散見された。群馬産は高温の影響により生育が遅延していたが回復した。病虫害が散見された。総入荷量は少なかつた前年を下回り前年比2.1%減。平均価格は前年より107円安576円。トマトは熊本産中心に千葉産及び愛知産の入荷。熊本産は8月の大雨により定植に遅れが見られ、気温の低下など影響を受け生育不良や病害も散見された。千葉産は10月にお日照不足や気温の低下による生育不良も散見されたがおおむね順調であった。愛知産は9月の高温の影響により小玉傾向であった。入荷量は少なかつた昨年を大幅に下回り、価格も高騰した。総入荷量は前年比21.2%減。平均価格は前年より227円高い966円。ばれいしょ類は北海道産中心の入荷。夏季の高温と干ばつによりやや小玉傾向であった。発芽など品質不良が散見された。総入荷量は前年を大幅に下回り前年比26.3%減。平均価格は前年より137円高い268円。たまねぎは北海道産中心の入荷。収穫は終了した。夏季の高温と干ばつの影響によりやや小ぶりとなった。入荷量は少なかつた平年並みだつた前

年を大幅に下回り、価格も7割以上高騰した。総入荷量は前年比26.6%減。平均価格は前年より96円高い221円。

[果実]

みかん類・かき類・りんご類中心の入荷で、取扱数量は36,687 t。前年比6.0%増。平均価格は426円で前年比13.0%安。

主な品目では、みかん類は極早生みかんが終盤となり、愛媛産、熊本産、長崎産を中心に、早生みかん中心の入荷となった。全体的に大玉傾向となり、総入荷量は前年比20.5%増。平均価格は前年比41円安。かき類は和歌山産平核無、福岡産富有を中心に入荷し、総入荷量は前年比9.2%増。平均価格は前年比53円安。りんご類は主な品種が早生ふじからふじへと切り替わり、青森産、長野産を中心に入荷した。気温の低下とともに着色不良は解消されたものの、前年同様に小玉傾向となり、総入荷量は前年比12.1%減。平均価格は前年比20円安。

1 2 月

[野菜]

気温は全国的に高かつた。降水量は北日本で多く、西日本では少なかつた。降雪量は北日本日本海側、東・西日本で少なかつた。日照時間は西日本太平洋側でかなり多く、東日本、西日本日本海側で多かつた。北日本では少なかつた。

取扱数量は110,477 tで前年比3.4%増。平均価格は307円で前年比13.0%安。

主な品目では、だいこんは千葉産を中心に神奈川県産の入荷。千葉産は平年並みの気候で適度な降雨に恵まれ、生育はおおむね順調であった。神奈川県産は播種期の高温傾向と生育期の少雨により生育にやや遅れは見られたが、その後に回復し、生育はおおむね順調となった。総入荷量は前年比2.5%増。平均価格は前年より39円安い81円。にんじんは千葉産中心

の入荷。10月以降の曇天と気温の低下等の影響により生育が遅延し、細物傾向にあった。その後は適度な降雨など天候に恵まれ、生育はおおむね順調となった。総入荷量は前年比3.2%増。平均価格は前年より5円安い176円。キャベツは愛知産を中心に千葉産の入荷。愛知産は生育期の高温と干ばつにより、生育が遅れが見られやや小玉傾向であったが、その後は適度な降雨に恵まれ玉肥大が進み、生育はおおむね順調となった。千葉産も適度な降雨と天候に恵まれ、生育は順調であった。総入荷量は前年比29.2%増。平均価格は前年より154円安い85円。レタスは静岡産中心に茨城産の入荷。静岡産は高温のため定植時期を遅らせた圃場もあり、生育期の乾燥と低温により生育が遅延が生じた。茨城産は高温と乾燥の影響により生育が遅れが見られたが、10月にまとまった降雨があり生育はおおむね順調となった。総入荷量は前年比17.3%増。平均価格は高騰した前年を下回りほぼ平年並みで前年より221円安い192円。はくさいは茨城産中心の入荷。高温の影響で一部に定植の遅れがあったが、その後の育成はおおむね順調となった。総入荷量は前年比4.5%減。平均価格は前年より26円安い55円。きゅうりは宮崎産中心に千葉産及び高知産の入荷。宮崎産の生育はおおむね順調であったが、天候の影響により一部に生育不良や病虫害が散見された。千葉産も生育はおおむね順調であった。高知産は天候に恵まれ生育は順調であった。総入荷量は前年比3.3%増。平均価格は前年より54円安い502円。トマトは熊本産を中心に栃木産及び愛知産の入荷。熊本産は8月の豪雨の影響により定植の遅れや生育不良が見られ、例年より小玉傾向で低温による裂果も見られたが、玉肥大は回復傾向となった。一部に病虫害が散見された。総入荷量は前年比0.7%減。平均価格は前年より21円安い630円。さといもは埼玉産中心の入荷。作付面積は前年並み。高温と干ばつの影響により生育にばらつきが見られ、小玉傾向となった。入荷量は昨年

を下回った。総入荷量は前年比11.4%減。平均価格は前年より80円高い476円。

[果実]

みかん類・りんご類・かんきつ類・いちご類中心の入荷で、取扱数量は47,750 t。前年比22.0%増。平均価格は537円で前年比11.9%安。

主な品目では、みかん類は愛媛産を中心に和歌山産、長崎産等が入荷した。主な品種が早生みかんから普通みかんへと移行する時期であるものの、普通みかんは順調に入荷した一方、高温障害で生育遅延が生じた早生みかんの一部は入荷時期が今月に後ろ倒しとなり、総入荷量は前年比36.3%増。平均価格は前年比67円安。りんご類は前月同様青森産ふじを中心に長野産、岩手産、山形産等が入荷し、総入荷量は前年比6.3%減。平均価格は前年比19円安。かんきつ類は愛媛産、熊本産を中心に、愛媛果試第28号（紅まどonna）やレモン、不知火等が入荷した。国内産のかんきつ類には若干の着色遅れがみられるものの玉肥大は良好で、愛媛果試第28号やはっさくの入荷量増加に伴い、総入荷量は前年比14.3%増。平均価格は前年比20円安。いちご類は栃木産を中心に入荷し、前年同様とちあいが入荷の中心品種となった。前年同様高温による定植時期の遅れがあったものの、総入荷量は前年比6.3%増。平均価格は前年比151円高。